

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 ナカノ会	事業所名	ナカノ看護小規模多機能型居宅介護事業所
所在地	(〒890-0008) 鹿児島市伊敷3丁目14番8号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じて医療・看護・介護の連携を図り迅速に対応することで利用者・家族の安心感に繋がっています。 ・医療ニーズの高い利用者を介護と看護の両面からサポートし24時間、365日切れ目のない体制で安心して生活が送れるよう取り組んでいます。 ・家族・医療、介護スタッフ間で利用者の情報共有を図るためにタイムライン形式による情報共有システム(MCS)を活用している。 ・コロナ感染対策を図る中、オンライン会議・オンライン、窓越し面会スタイルをとり運営している。
--

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(31) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 24 日	出席人数 (合計)	(42) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (31人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (0人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者 (1人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (人) <input type="checkbox"/> その他 (6人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>運営基準など各職員の理解を深め、コロナ禍においても事業継続計画に基づき運用していく。</p> <p>29名登録数での稼働率を95%に上げる。</p> <p>医療的ニーズの高い緊急枠としても運用できるように計画していく。</p>	<p>1年間の利用者実人数37名登録数29名定員に対して平均27.1名(1月末現在)で稼働(93%)昨年より5%増加あり。緊急ショート枠でコロナ濃厚接触者を受け入れて、のち陽性者になったが感染対策にて事業所内への感染は予防できた。</p> <p>PEG造設者5名、インスリン、高カロリー点滴、麻薬による疼痛管理など、医療機関から紹介の終末期対象者のうち8名(1月末現在)(3月末12名)をお看取りさせていただいた。医療機関からも上記の対象者の問い合わせなどいただく事例が増えている。</p>	おおよそできている	<p>コロナ禍の中においてもBCP(業務継続計画)に基づき定説な運営がなされるよう努めている。また稼働率も上昇してきている。</p> <p>利用状況がわからない(入館制限中)</p> <p>平均登録者数が27.1名であり安定した稼働がなされていると思います。</p> <p>コロナ感染への対応も適宜翌なされていると思います。やはり医療への安心感に付随したお問い合わせ等が多いということが増えました。</p>
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供(評価項目 11～27)</p> <p>現状にとらわれず利用者の状況や思いまた家族の体調介護負担等を考慮しながら柔軟に対応していく。</p> <p>状態変化に早い段階で気づきサービス変更等の対応ができるよう日頃の情報共有の在り方を強化する</p>	<p>コロナ禍で家族や関係者との連携を行い、一時的には家族面会も可能な状況を作り病状説明と意思確認と方針決定につなげられた。コロナ禍でもZOOMやMCSなどのツール活用し療養のご様子や報告も継続できた。そのような中でケアの在り方においてはわかりやすい説明を</p>	おおよそできている	<p>コロナ禍の中でSNSを活用した対応は利用者家族の安心感を高めるたえに役立ったと考える。</p> <p>世間の状況下に合わせた対応がなされていると思います。</p> <p>確かにICTツールが多く、どれが効率よく活用できるのか</p>

			心掛け、同意をいただき家族の安心に繋げていくことができた。一方ツールが複数にわたり職員の負担や効率性は高まらなかった。		は今後どの事業所においても課題になるのかなと思います。 地域とのかかわり方も状況により判断していく必要性が高いですしできることからの取り組みでよいと思います。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	利用者の状況に応じて適宜サービス関係者とカンファレンスを通して状況把握し全員が情報共有できる体制を強化する 24時間緊急体制の連携をもとに予測した対応ができる	事故発生時の初期対応についても各自が認識でき家族への信頼構築に繋がった。医師、看護師との24時間連携による変化時の相談、緊急時対応など実施できたが、搬送時の詳細情報の連携に課題があり新たな連携シートの活用を行った。	おおよそできている	カンファレンスは適宜適切になされていたと受け止めている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	コロナ禍で地域住民・関係機関との連携の工夫を図る 清掃活動を通じて地域へのさらなる認知度の向上を図る	地域の感染状況をみて地域活動も控えざるを得ず、今年度も運営推進会議は開催できなかった。文書報告を行い活動内容などへのご意見やご助言をいただける仕組みとしたが、やはり効果的な成果は得られなかった。	おおよそできている	
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	利用者の重症化・終末期においても本人・家族が不安なく安楽に過ごせるよう医療と介護の密な連携でタイムリーに状態把握ができる体制作りを強化する	病状や生活状況など関係者からの都度の報告を行い、経過に不安なく、必要な情報をもとに本人家族が希望や意向をしっかりと伝えられる仕組みづくりを意識できた一年だった。	おおよそできている	この3年間でコロナ禍の中でどのようにサービスを提供するのかというノウハウも蓄積されてきたものと考えているが、ノウハウを生かして今後も対応していくことが重要で	

				<p>ある。 適宜の対応がなされているのだと思いました。おおよそできているとの評価が多くあり、事業所全体としての取り組みが良くなされていると思います。</p>
--	--	--	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	改善計画（案）	運営推進会議における意見等	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>コロナ渦の制限が緩和されていく状況に合わせて、事業継続計画に基づき、各自も目標設定に合わせて地域との連携を図り、院内外の研修から学びを深め質の向上を図る。</p> <p>29名登録数での稼働率を95%を維持を目標にしつつ、緊急対応としても運用に努める。</p>	<p>今後とも職員間の連携を深めると共に必要な研修を実施し質の高いサービス提供につとめていただきたい。なお、コロナウイルス感染症の感染症法の取り扱いが5類へ移行することが予定されていることから対応の十分な検討をお願いしたい。入館制限緩和を図り対面式での運営推進会議の再開を希望する。</p>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	利用者様及び家族の思いに合わせたサービスを実践し状態変化の情報共有（メール、MCS、請求業務ソフトによるサービス記録の情報）活用が効率的にできサービス提供できる	SNSの活用を含め、多様なルールを用いて家族の安心感に繋がる対応をお願いしたい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	利用者の状況に応じて適宜サービス関係者とカンファレンスを通して状況把握し全員が情報共有できる体制を強化する 24時間緊急体制の連携をもとに予測した対応ができる。また緊急時連携シートを活用し適切な情報活用につなげていく。	サービスの提供にあたって職員間の連携は極めて重要である。現在の取り組みを今後とも続けていただきたい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	現在、製作中のホームページの完成に伴い、ますます、地域への情報発信を行う。清掃活動は継続し、コロナ渦制限緩和の状況に応じて実践できる地域活動に努めていく	医療への安心感に付随したお問い合わせ等が増え、地域とのかかわり方も状況により判断していく必要性が高く、できることからの取り組みをお願いしたい
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	利用者様、ご家族のみならずスタッフ、地域の方々の信頼関係が更に深まるようにサービス提供する。回覧板の導入活用。	事業所全体としての取り組みが良くなされていると思います	

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		●			引き続き職員の資質の向上に努めていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通		●			人材をどのように育成して	✓ 「育成計画の作成」の状況について

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足	
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない			
	じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	[具体的な状況・取組内容] ・面接、目標シートを中心に面談実施 ・3か月、6か月、1年と計画が作成され実施、評価している				いくつかは重要な課題ではあるが一律の解決策はない。面談をはじめ様々な方法を用いて「人材」が「人財」となるよう職員の資質向上に努めていただきたい。	て、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」	
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		●			[具体的な状況・取組内容] ・WEB研修等受講している ・知識、技術向上の為研修には参加できているが、今後学んだことをスタッフへ分かりやすく伝えていくことが課題 ・月1回ステーション内で定期的に勉強会を行い学ぶことができています	WEB研修等への参加は有用を考えている。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保								
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		●			[具体的な状況・取組内容] ・月1回のミーティング内容協議事項プリントで回覧されているが、各自の認識、受け止め方の相違もあり連携周知不足になる事もあった為、都度声掛けも必要であった ・合同カンファレンス等の機会はないが、個々で連携は出来ている	を十分に発揮していただくためにもよりいっそうの連携に努めていただきたい。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・電子カルテ、記録、メール、MCS					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		●				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・会議の開催が難しく意見が集まりにくい状況もある					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		●				✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・急な退職にも伴いマンパワー不足の補充が追い付いていない部分もあり、声か が中心になることもあり ・ハラスメントへの相互利用は今後も課題であるが相談窓口は明確にできている ・色々と相談しやすい環境にある為精神的負担の軽減となっている ・積極的に外部研修を受けられる環境である ・残業も必要以上に行わないような声掛けができている				介護分野の職員数の不足が拡大するといわれている中で、職員に選ばれる働きやすい職場とするための取り組みは今後益々重要となるので積極的な取り組みをお願いしたい。	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		●			現在の取り組みを今後とも継続していただきたい	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・メール、回覧等や情報共有の他に必要時電話連絡して迅速に情報共有が行っている ・担当Ns、CMへの情報共有行っている ・電子カルテでの情報共有と必要に応じてステーション内でそれぞれが情報を発信している為共有できている 					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		●			事故の発生は利用者の生命にもかかわることからヒヤリハットの十分な検証に努めていただきたい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・提供したケアの振り返り体調管理、カルテ、PCの運搬上の配慮、事業所外で話さない等行っている ・ヒヤリハットが起こったときは各スタッフが報告書を作成メールで連携し予防につながっている 					
② 災害等の緊急時の体制の構築							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		●			様々な事態を想定しての対応の検討をお願いしたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		●			今後とも利用者やその家族本位の対応をお願いしたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおそできている	あまりできていない	全くできていない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		●			職員間の連携は極めて重要であることから様々な方法を用いて対応に努めていただきたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		●			今後とも利用者やその顔ぶれの意向を把握したうえでのサービス提供に努めていただきたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		●			利用者の状況ったサービスの提供は、家族の事業所への信頼に繋がる重要なポイントであると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		●			アセスメントの実施は提供するサービスのキソナルものであることから今後とも適宜適切な対応をお願いしたい	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 都度検討と見直しのプランとなっている ・ 状況変化時には速やかに担当者会議が開かれ、情報共有と共にアセスメント、計画立案が行われている ・ 状況変化に応じて計画の見直しや計画の立て直しがタイムリーに行えず ・ 利用者の状況に変化があったときは計画の修正等が行われている ・ 医療と介護での密な連携情報共有図りその人の状態を早期に把握し計画への追加修正等行っている 					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後機会を増やしていく ・ 利用者宅に訪問したり家族と連携を取り合い生活状況に応じて対応している ・ 毎月の訪問状況に応じて適宜訪問し本人・家族の生活状況や困りごと、不安に感じている事等聞き取りや関係各所での 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		情報共有を図る等継続的に把握している					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		●			どの職種の職員にも情報が共有され、かつその内容を理解したうえでのサービスが提供される体制の構築に引き続き務めていただきたい	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・共有されているのかもしれないが、自分達ができるように可視化されていない ・毎月の評価等の実施 ・適時情報共有している ・関係多職種との情報共有がしっかりできている ・短期6か月の見直しや利用者の状況に応じて適宜関係各所とカンファレンスを行い情報共有している					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		●				✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活か
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・DM患者の機能後(B Sチェックやインスリン)に協力実施している ・情報共有しながら依頼、請負等対応している ・しっかり業務分担できている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							した役割分担や、業務の状況等に 応じた柔軟な役割分担を行うこと が重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		●				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・情報共有がスムーズであり必要時画像も上がるので確認しやすい ・今後機会を増やす ・寿やメールで情報共有し急ぐときなどは口頭で情報共有している					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		●				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・介護職には必要時情報提供や提案など行っている					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護計画を作成しすべての利用者やその家族に説明し理解を得ている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●			家族に対する説明は十分になされていると受け止めている。今後とも現在の対応を続けていただきたい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 担当者会議の場にて、各担当者より状態・状況・留意点等について説明し利用者・家族の理解を得ている。・看護計画を作成し説明し利用者の同意を得ている					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・今後機会をえて実施していく ・導入時やその後のケアの方法を確認している					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		●			変化時は電話等により説明を受けている。今後とも家族が安心できる対応に努めていただきたい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・変化時は特に対面しての説明の機会を設けている ・CM への情報共有、上司への報告、相談等適時実施している ・ケアの内容を確認しサービスを提供している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		●				<p>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ機会を得ていない ・在宅での生活の継続の有無をしっかりと共有し対応策等を検討できている 					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		●				<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都度説明を行い記録している ・時期を見てパンフレット利用する事で終末期利用者への説明が行えている ・1回のみ実施できた ・できる限り状況に応じて説明したこと家族、本人の反応理解について記録に残すようにしている 					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		●			<p>病院における手術が必要になったときにも十分な連携をしていただいた。引き続き同様の対応をお願いしたい。</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者に対しての導入面接を行い内容、サービス費用など説明とツールを使用し共有出来ている ・退院前のカンファレンスで継続した情 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		報の共有ができていない ・急な入居や緊急ショート利用などもあり情報共有がしにくいこともある					共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		●				<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		●				<p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		●			地域での清掃活動が定期的に行われて地域代表として感謝しています	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	●					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				●		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	●				看取りに対応できる体制は家族にとっても安心感を与える重要な要素であると考えている。今後とも受け入れる体制の維持をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足の観点から、充足度を評価します
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		●			高齢化社会にいかにして対応するかとの考えから「地域包括ケアシステム」が提唱されたものとする。そうした観点から、職員がシステムの内容を理解したうえでサービス提供する姿は望ましいと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>コロナ禍の為、実施する機会が少なかった。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価							
① 計画目標の達成							
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 				できるだけ多くの利用者について、計画目標が達成されるよう努めていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 毎月評価し目標の達成できている					
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 診療と情報共有し24時間体制で対応利用者やその家族は安心感が得られていると思う ・在宅、通い、ショートの様子が継続できている				✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない					✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・その都度思いを傾聴し状態に応じて状 況を説明している					泊まり)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場 合は、「5. 看取りの希望者はいない」